

私たちの町の文化財

■第10話 放牛石仏

まち角を歩いていると、お地藏様をよくみかけます。このお地藏様のなかに、放牛地藏と呼ばれるものが多数あるのはご存知でしょうか。放牛地藏とは、江戸時代の享保年間に肥後国の僧放牛が作った石仏のことで、熊本県内に100体以上が知られています。石仏の大半は熊本市内に集中し、熊本駅の周辺にも多く認めることができます。石仏は享保7年から17年にかけて作られ、地藏・阿弥陀・観音・釈迦・薬師などの種類があります。また、道歌という仏教の教えや悟りの要点を詠み込んだ和歌や漢文が彫られている場合もあります。熊本駅周辺は遺跡の宝庫で、発掘調査の機会が多くあります。私は周辺を散策することがありますが、お地藏様に注意を向けることは少なかったように思います。田崎陸橋の交差点にも放牛石仏が置かれていますが、ある日お地藏様を眺めてみました。すると周辺はきれいに清められ、欠かさずお参りされているようです。現在も信仰の対象として大切にされていることがわかります。各地の放牛地藏も同様に、大切に扱われていることでしょう。

今から300年ちかく前に作られ、時代の変化を見守ってきたお地藏様。これからも私たちのそばで見守り続けます。ときには足を止めて石仏と語りませんか。素敵な出会いが待っています。

熊本市文化振興課 林田和人氏

田崎陸橋付近の放牛石仏

そうそう、よく考えると
春日3丁目の春日寺横や
4丁目の花岡山上り口山
側などにあるモン

